

令和4年11月24日

沖縄県議会議長

赤嶺昇殿

派遣議員

小渡良太郎	新垣淑豊	島尻忠明
仲里全孝	新垣新	下地康教
石原朝子	仲村家治	西銘啓史郎
座波一	大浜一郎	花城大輔
又吉清義	末松文信	島袋大
中川京貴	照屋守之	仲田弘毅
玉城健一郎	上里善清	山里将雄
照屋大河	山内末子	比嘉京子
島袋恵祐	瀬長美佐雄	玉城武光
比嘉瑞己	玉城ノブ子	西銘純恵
渡久地修	喜友名智子	國仲昌二
仲村未央	崎山嗣幸	次呂久成崇
新垣光荣	平良昭一	仲宗根悟
上原章	金城勉	大城憲幸
當間盛夫	上原快佐	赤嶺昇

「デービッド・Y・イグ ハワイ州知事本会議場スピーチ」  
派遣議員団報告書

みだしのことについて、別紙のとおり報告します。

## 別紙

### 「デービッド・Y・イゲ ハワイ州知事本会議場スピーチ」派遣議員団報告書

#### 1 派遣議員（45人）

小 渡 良太郎	新 垣 淑 豊	島 尻 忠 明
仲 里 全 孝	新 垣 新	下 地 康 教
石 原 朝 子	仲 村 家 治	西 銘 啓史郎
座 波 一	大 浜 一 郎	花 城 大 輔
又 吉 清 義	末 松 文 信	島 袋 大
中 川 京 貴	照 屋 守 之	仲 田 弘 毅
玉 城 健一郎	上 里 善 清	山 里 将 雄
照 屋 大 河	山 内 末 子	比 嘉 京 子
島 袋 恵 祐	瀬 長 美佐雄	玉 城 武 光
比 嘉 瑞 己	玉 城 ノブ子	西 銘 純 恵
渡久地 修	喜友名 智 子	國 仲 昌 二
仲 村 未 央	崎 山 嗣 幸	次呂久 成 崇
新 垣 光 栄	平 良 昭 一	仲宗根 悟
上 原 章	金 城 勉	大 城 憲 幸
當 間 盛 夫	上 原 快 佐	赤 嶺 昇

#### 2 派遣目的

第7回世界のウチナーンチュ大会に参加するため来沖するデービッド・Y・イゲ ハワイ州知事が、県系人として初めてアメリカ合衆国州知事に選出され、2期8年を務め今年11月で任期を満了されることに当たり、これまでの実績に敬意を表するとともに、県議会議員及び県民並びに世界のウチナーンチュに向けたスピーチをいただく。

#### 3 派遣期間

令和4年10月31日（1日）

#### 4 派遣場所

沖縄県那覇市（沖縄県議会議事堂）

## 5 概要

(1) 赤嶺議長、照屋（守）副議長エスコートの下、イゲ州知事夫妻が入場し、開会した。

(2) 初めに、進行役の山城県議会事務局長からイゲ州知事のプロフィールが紹介された。

○ ハワイオアフ島パールシティの出身で、ハワイ大学卒業後は 34 年間にわたり、情報技術、電気通信、ネットワーク、公共政策部門で活躍した。1985 年にハワイ州議会 下院議員に選出された後、1994 年にはハワイ州議会 上院議員、2014 年にハワイ州知事に就任され、現在 2 期目である。

(3) 次に、赤嶺議長が歓迎の挨拶を行った。

○ デービッド・イゲ ハワイ州知事並びにハワイ、そして、各国からお越しの世界のウチナーンチュの皆様、ようこそ沖縄へお帰りくださいました。本日、イゲ州知事を沖縄県議会にお迎えするに当たり、沖縄県議会を代表いたしまして、心より歓迎申し上げます。

○ イゲ州知事は、2014 年に沖縄県系人として初めて米国州知事に就任され、2 期約 8 年の在任期間中、安価な住宅供給によるホームレスの減や、州の 100%再生可能エネルギー目標に向けた取組、若者世代に向けた教育への注力、州財政の持続可能性の確保に取り組むなど、多くの実績を残されました。

○ 本日、イゲ州知事を本会議場にお招きし御挨拶をいただくことは、県民並びにハワイをはじめとする世界のウチナーンチュにとって大変光栄であり誇りです。

○ 沖縄の海外移民の歴史は、1 世紀以上前の 1899 年に沖縄から 26 人の移民がハワイに向けて出発したのが始まりでした。先人たちは言語、生活習慣が異なる新天地において、筆舌に語り尽くせぬ幾多の困難を、不断の御努力によって乗り越えられました。今日においては約 42 万人の県系人が、世界各国で御活躍されております。

○ 過酷な状況下においても、ハワイの県系人は、沖縄戦により焦土化したふるさとを救うべく、寄附金を募り、豚 550 頭やヤギ 800 頭を沖縄に送り、食糧難に苦しむ県民を支えました。

○ ハワイからのまさに命綱と言える救済は、医学の分野にも及び、沖縄戦により崩壊した医療を担う人材を育成する制度として、県立中部

病院における医師卒後臨床研修制度の礎を築いたのはハワイで開業していた県系人の山内医師の御尽力によるものでした。後にこの制度は、日本の医師臨床研修制度の構築にも寄与しました。

- この場を借りて、沖縄県議会を代表し、ハワイの県系人をはじめ、沖縄への支援をされてこられた世界のウチナーンチュの皆様に対し、心より御礼申し上げます。
- 沖縄の日本復帰 50 周年と第 7 回世界のウチナーンチュ大会を迎える本年は、次の 50 年の起点となる特別な年です。御参集の皆様におかれましては、沖縄と世界のウチナーンチュの未来についてさらに連携を強化し、次代に成果を残していく機会となることを期待しております。
- 結びに、イゲ州知事をはじめ、本日御参集の皆様のますますの御健勝、御活躍を祈念申し上げ、歓迎の御挨拶といたします。

(4) 次に、イゲ州知事がスピーチを行った（以下、仮訳）。

- アロハ、ハイサイ グスーヨー。

皆様、本日はこのような場にお招きいただきまして、本当にありがとうございます。

今日は、最後に私たちが対面で会うことができた日以降、ハワイがどういう状況だったかということについて、お話しできることを大変うれしく思っております。

沖縄同様に、このコロナによって、地理的に隔離され、また輸入に頼っているハワイや沖縄のような場所が、いかにコロナですとかハリケーン、それから緊急事態宣言のような事態に脆弱かということがより顕著になりました。

ハワイという島嶼州において、この困難をどういうふう乗り越えたかということに焦点を当ててお話ししていきたいと思っております。

- 過去 3 年間に振り返りますと、この新しいウイルス、私たちの生活を変えてしまったウイルスについて、全く知らなかったあのときからのことを忘れてしまうということもあるかもしれません。

ただ、このコロナによって、私たちはいかに迅速にお互いを思いやれるかということに改めて考え直すことになりました。また、私どもの政府の省庁も、様々にその各省庁の範囲の中で新しい方法を見つけるために協力をしてきました。

様々なハワイ州の省庁が多くプログラムやキャンペーンを行いま

した。例えばマスク着用、ワクチンの接種、そしてソーシャルディスタンス、また接触者を追うこと、それから隔離などに関して様々なプログラムを行い、また学校や企業、医療機関、観光業界などにアドバイスなども行いました。

そしてハワイの保健省も、このコロナという危機に立ち向かうために様々なレベルの政府機関と協力をいたしました。

そしてまたハワイの国家警備隊も——この市民から成る州兵ですけれども、約 1800 人が今回の、歴史上まれに見る長く大変な支援任務というものを遂行いたしました。

また様々な支援プログラムが構築されました。例えば失業保険ですとか、家賃補助、それから小規模企業ですとかNPOに対する支援といったものなどです。そしてまた、州のほうでも、地元の企業、それから農業従事者などに対する支援プログラムというものも構築いたしました。

そしてまた時がたつにつれて、ハワイ州のほうでは、セーフ・トラベル・プログラムというものを行いました。日本がやっている海外からの観光客に、アプリを入れるというこのMy SOSと類似したものです。

また、ハワイ州はアメリカで唯一、コロナのPCR検査がマイナスであれば隔離期間はなくても構わないという政策を打ち出しました。そしてその後、状況がよくなるにつれて、これはワクチン接種証明、もしくはコロナのPCR検査の結果がマイナスであれば隔離しなくてもいいというふうになりました。

このセーフ・トラベル・プログラムというものによって、ハワイに観光客が 1150 万人来ることができるようになりました。これによって経済回復も促進されました。

アメリカ国内でワクチン接種の数が増加するに従って、このハワイのセーフ・トラベル・プログラムというものも、2022 年 3 月に段階的に終了することができました。

実は、ハワイはアメリカの中でもそのコロナ対策がトップレベル、ナンバーワンだということを評価されたことは、大変私も誇りに思っております。最初、このコロナが始まったとき、3 年後にまだこのコロナと闘っているということは誰も想像していませんでした。

今やワクチンもでき、また薬、そして予防策についてもいろいろと知識が得られてきておりますが、何よりも重要なことは、やはりこの

コロナによって観光の重要性が再認識されたということです。

特に、私たちハワイの価値観を尊重してくださる日本人の観光客に対しては、その感謝の念をより深くした次第です。

- ハワイでのコロナが落ち着いてくるに従って、1年前、1年半それ以上前に考えられていた、その当時は自宅待機ですとか解雇ということも計画されていましたが、その頃に予想された経済予想というものを超える伸びになっております。

また9月の失業率は、コロナの影響がピークだった頃の22.4%から大きく減少し、9月には3.5%になっております。

店舗やレストランなども、その増加する需要に追いつくように、スタッフを採用しながらできる限りビジネスを行っております。

ハワイは、アメリカ本土の人にとっても、また海外の人にとっても、今でもやはり行きたい場所ナンバーワンでございます。

ハワイの多くの人の努力、それから様々な犠牲を払ったことによって、現在ハワイは非常に安全な観光地というふうになっております。例えば、山ならハイキング、海ならサーフィンという形のアウトドア、外のアクティビティーも盛んでございます。

そして、ハワイ州は引き続き、ハワイ内外の観光産業と協力して、このアロハの精神を推進してまいります。

2022年1月から9月までの最初の9か月間で、日本からハワイを訪れた観光客の数は11万人に上りました。このうちの4分の1が、初めてハワイを訪れた方々でした。

日本ーハワイ間の旅行が回復できるように、日本旅行者がハワイへ行けるようにしたということに関して、日本政府にも大変感謝しております。

9月だけでも、この11万人のうち2万4000人が、日本からハワイを訪れてくださっています。10月11日に1日当たりの観光客数が緩和されたこともありますので、より多くの日本人の方に来ていただけるのではないかと考えております。

このコロナの間、それからこの回復の初期の段階で多くの方が口にしてきたのが、日本人旅行者に対する感謝の気持ちでした。

というのも、日本人観光客は、私たちの「マラマ」の精神を非常に共有してくださっているからです。この「マラマ」というのは、私たちの周り、そして私たちが共有しているこの世界に対する思いやりの気持ち、それを大切にすることです。

○ コロナによって、私たちはお互いを思いやることの重要性について思い起こさせられることになりました。

例えば高齢者ですとか、健康に懸念がある方々の近くではマスクを  
するとか、近所の人たちが十分に食料があるかどうかを気にかけてあ  
げる、こういうことも「マラマ」の実行ということになります。

このコロナの最初の段階で、観光というものが全く止まってしま  
いました。2019年には1000万人だった観光客がゼロになったというこ  
とで、逆にこの観光をどういうふうにしたいのかということを考える  
いい機会になりました。

過去100年ほど、ハワイと言えば、皆さんが知っているのは「アロ  
ハ」の価値だと思います。

今後100年を考えると、そこで大事なのは、「マラマの価値観」と  
いうものを世界の人に知っていただくことだと思います。

私たちは、お互いにこのマラマを実践するだけではなく、地球に対  
してもマラマを実践する必要があります。

沖縄やハワイのような島嶼地域に住む私たちは、気候変動が現実の  
ものだということを知っております。例えば海面の上昇、そしてより  
大きな台風やハリケーン、また干ばつ、大雨、そしてサンゴの白化、  
その他様々な問題に直面しております。

2016年にハワイが国際自然保護連合の会議のホスト国になったん  
ですけれども、そのときに、私はハワイのサステナブル・ハワイ・  
イニシアチブ——持続可能なハワイイニシアチブというものを宣言  
いたしました。これは、電力を100%再生可能エネルギーで賄うこと、  
そして30%の河川の管理を行うこと、また30%の沿岸海域の管理を  
行うこと、そして食糧生産を2倍にすること、また、省庁横断的なバ  
イオセキュリティー計画を実行することなどを含んでおりました。

このコロナで1つよかったことというのは、このハワイでの観光を  
どういうふうにしたいのかということ在地域と一緒に考える時間が  
できたということです。

そのときにハワイの住民から上がった声というのが、よりよく管理  
された観光が必要であるということでした。これは再生型の観光——  
リジェネラティブツーリズムと言いますが——に変えていく必要があ  
るというものでした。

この再生型の観光というのは、経済とそれから地域の方々の幸せや  
自然環境の保護といったもののバランスを取るということです。です

から、将来にわたってよりよいハワイになるために、観光が貢献するというものです。

私たちがよく知っている通貨のような金銭的な価値に加えて、例えば新鮮な空気、きれいな水、生き生きとした人や文化といったものも、通貨と同じような価値を持つというふうに考えられます。そして、それこそが、ハワイを行きたい場所にするために必要なものであるというふうに言えます。これは、人々の生活と経済のバランスを取るというものです。また、これを観光客に対して啓蒙していくということも、非常に重要です。

ですから、観光客を巻き込んでいく、そして教育をしていくということが非常に重要になります。今日、私たちは、観光客の方にもマラマを実践するように呼びかけています。それによって、今後何世代にもわたってハワイがよりよい場所になれると思っています。

日本からの観光客の方々は、このマラマの精神を共有してくださっているというふうに感じています。だからこそ、ハワイと日本との間の観光を復活させることに集中しているわけです。

- このコロナによって、私たちの世代が試された、定義されたというふうに思っています。歴史を見てみますと、このような困難というのは繰り返し起こっております。そのどの場合においても、時には、個人として何がベストなのかということと、地域社会にとって何がベストなのかということを選択しなくてはいけない場合もあります。

私は、このような時期にハワイ州のリーダーであることができたということに、非常に感謝しています。このリーダーとして一番いいことというのは、日々、誰かを助けることができるということです。

困難な決断を下すこと、これは批判されることも含めてですけれども、それは非常に重要なことだと思っています。そして私は常に、人気が出るような決断ではなく、正しい決断をしようというふうに考えています。

ハワイ州としても、決して簡単なことを選んできたわけではありません。むしろ、正しい理由に基づいた正しい決断をしてまいりました。

必要なときに、そして重要なことは、必要なことであれば、ハワイの人々は常に立ち上がって声を上げてきました。これはハワイのリーダーだけではなく、人々、子供から大人に至るまで、そのようにしてきたからこそ、ハワイの強さというものが生まれてきたと思います。

そして、また重要なことは、価値観を共にする、太平洋の向こう側



にいる友人たち、沖縄の人たちからの支援でもあります。

沖縄とハワイは多くのつながりを持っております。

そして、人と人レベルでの交流もありましたし、1985年からは姉妹州、姉妹県という関係も維持しております。また、長きにわたって交換留学のプログラムなども行っております。そして今回、沖縄とハワイの図書館協力の合意も結ぶことになっております。

また、ビジネスの関係も非常に強いものがあり、例えば海洋エネルギーですとか海洋深層水に関しても、パートナーシップを結んでおります。また2020年には、沖縄ハワイクリーンエネルギーパートナーシップをさらに更新いたしました。この再生エネルギーに関する協力というものも、12年続いてきております。

そしてもちろん、家族レベルでのつながりというものもあります。私も祖父母、ニオとウシがもともと西原町からですけれどもハワイに渡り、そして家族を持ちました。その家族に、私の父、トキオがいたわけです。私は、アメリカ初の県系知事となったことを大変誇りに思っておりますし、また今回、世界ウチナンチュ大会に参加できることも、大変うれしく思っております。

また本日、私の妻、ドーン・アマノ・イゲと子供たち、ローリン、マシュー、エイミーが来ております。

知事を長く務めれば務めるほど、この沖縄・ハワイの関係がどれだけ重要かということがますます分かってきます。

日米関係、そしてもちろんハワイ・沖縄の関係というのは、この太平洋地域の平和、そして法治、そして民主主義に関して非常に重要な関係です。

沖縄の皆様、そしてこの県議会の皆様に対しては、このような機会に御招待をいただき、本当にありがとうございます。感謝しております。

イッペー ニフェーデービル。マハロ。アロハ。(拍手)

**(5) イゲ州知事のスピーチに対し、照屋（守）副議長が謝辞を述べた。**

- 本日は、デービッド・イゲ ハワイ州知事が御来沖され、沖縄県議会の要請に応え、県議会本会議場にて御講演をいただき、深く感謝申し上げます。そして本日は、イゲ知事の奥様とそしてまた御家族、ハワイ沖縄県人連合会の役員の皆様も同席しております。
- イゲ ハワイ州知事の存在は、世界に広がるウチナンチュの誇り

であり、同時に、沖縄県あるいは沖縄県には、41市町村がございますけれども、その全ての皆様方の誇りとするところであります。

○ 本日の講演会は、玉城沖縄県知事をはじめ県下41市町村にも御案内を申し上げ、御臨席をいただいております。ドルボー総領事にも御臨席いただき、特にイゲ知事の祖父母のふるさつである西原町からは、町長はじめ多くの議員に御臨席をいただいていると聞いております。西原町の皆さん、ありがとうございます。改めて、御臨席の皆様へ感謝を申し上げます。

○ 本日のイゲ知事の御講演をきっかけに、ハワイと沖縄がさらに深い絆で結ばれ、ウチナーンチュが世界で活躍されるよう期待いたします。

○ デービッド・イゲ ハワイ州知事、そしてまた御臨席の皆様へ深く感謝を申し上げ、謝辞といたします。

本日は誠にありがとうございました。

(5) 最後に、議場・傍聴席にいる参加者全員で記念撮影を行い、閉会した。



以上